

# 沼田から新種の化石！19年ぶりの認定！

## その名も「ヌマタナガスクジラ」

このたび、通称プロトミンククジラと呼ばれていた沼田の化石が新種と判明し、正式に名前がつきました。沼田町内で発掘された化石が新種として認められたのは、ヌマタネズミルカ以来19年ぶりです。

新種のクジラは、和名をヌマタナガスクジラ、学名（生物の正式な名前のこと）は *Miobalaenoptera numataensis*（マイオバラエノプテラ ヌマタエンス）といます。学名の意味は、「中新世という時代の沼田のナガスクジラ」です。中新世（およそ700万年前）という時代は、ナガスクジラの化石が著しく少なく、彼等の歴史はよくわかっていません。



▲発見当時の写真

味は、「中新世という時代の沼田のナガスクジラ」です。中新世（およそ700万年前）という時代は、ナガスクジラの化石が著しく少なく、彼等の歴史はよくわかっていません。



▲ヌマタナガスクジラ化石（実物）

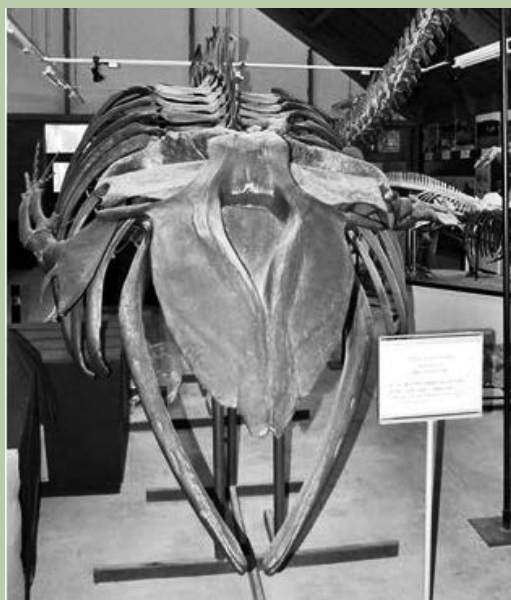
この化石は1989年7月8日、釣りで雨竜川（共成第二地区）を訪れていた深川市の大堀三郎氏（故人）によって発見され、教育委員会や沼田町化石研究会のメンバーによって4日間にわたり発掘されました。その後、化石に付着した余分な石を取り除くクリーニング作業が、町内の沼田町自然史研究室に

おいて行なわれました。

沼田町で発見されたこの化石は、種類を判断する上で重要な手掛かりとなる、頭と耳の骨が残されていたことから、新種になるのではないかとその期待から2016年ごろより研究が行われてきました。

研究が進み、海外の研究者からは「ナガスクジラの進化に興味深い知識を追加した」「ナガスクジラの初期の形について重要な情報だ」と高い評価を受けています。

研究を通して、沼田にとっても重要な化石が存在していることを、世界に発信できるようになったのです。



▲ヌマタナガスクジラ化石（レプリカ）

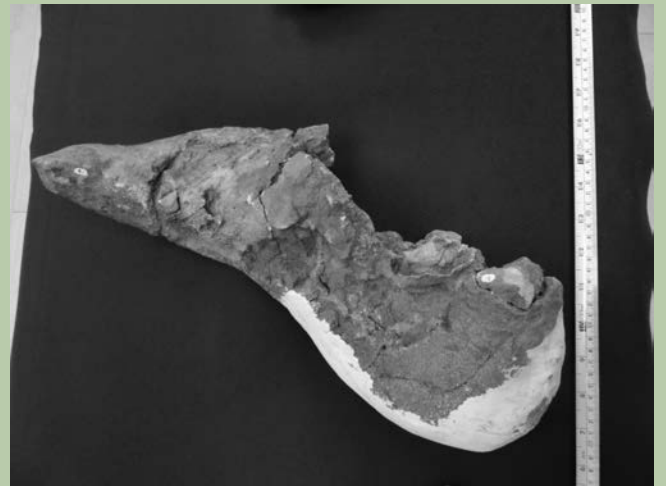


▲ヌマタナガスクジラ化石（レプリカ）

※この新種の標本を紹介する企画展を、沼田町化石体験館（ほろしん温泉向かい）で4月29日から開催します。町民のみなさんは無料で観覧できます。ぜひ、ご覧ください。



▲ヌマタナガスクジラ化石（実物）※耳骨



▲ヌマタナガスクジラ化石（実物）※側頭骨



▲新種と判明したナガスクジラの化石を解説する木村名誉館長（左）と田中特別学芸員（右）

沼田町化石館名誉館長の木村方一道教育大学名誉教授は「今回の発見を機に子どもたちに沼田の昔を知ってもらい、興味が広がってほしい。」と述べ、田中嘉寛特別学芸員は「沼田には様々な生き物がいたと感じた。ネズミイルカがいて、小さなヒゲクジラもいた。ヌマタネズミイルカから研究を始めて、大きなクジラの研究に辿り着くことができました。歴代の研究員によって小さな研究を積み重ねたことで、今回の発表に至った。今後、沼田にどのような生き物がいたかを更に研究していきたい」と話されていました。